



## 大籠秀之さんが親孝行大賞『こころぽかぽか賞』受賞！

第六さつき寮でスピーチクラブの大籠秀之さんの文章が、「プチ紳士・プチ淑女を探せ！」運動事務局主催の親孝行大賞の『こころぽかぽか賞』に選ばれました。

大籠さんは、第七みずき寮に在寮中にお母さんが亡くなられ、その年のお正月旅行に、お母さんの写真をずっと持ち歩いていました。大籠さんの心の中にお母さんが生き続けていると感じていました。「ずっと天国からお父さんとお母さんが見ていてくれるよ」と声をかけ続けました。去年のスピーチクラブで、親孝行大賞の募集を知り、みんなに書いてもらいました。その時、書いた大籠さんの文章が今回、表彰されましたのでご紹介します。

### 「天国のお父さん、お母さん」 大籠 秀之

お父さん、お母さんは、天国でぼくをみてくれています。  
お母さんが生きていたころ、おうちでぼくがイライラして、大きなこえを出してしまいました。お父さん、お母さんが天国でぼくをみてくれていて、うれしいです。ぼくがけんこうで、仕事をいっしょうけんめいすると、お父さん、お母さんもうれしいと思います。今、ぼくはアパホテルのつるをおる仕事をしています。ぼくのおったつるは、アパホテルにくるおきゃくさんに、わたされます。おきゃくさんに、よろこんでもらうとうれしいです。天国のお父さん、お母さんにもつるをおってあげたいです。  
天国であんしんしてほしいです。



平成 22 年 9 月の後援会心の鐘会報誌に大籠さんのお母様の文章を掲載していました。  
お母様の思いが溢れる文章です。あわせてご覧ください。

## 「就労できました」

大籠 京子

昨年 12 月、念願かなって、株式会社サンコールに就労させていただきました。本人はもとより家族全員大喜びで、久しぶりに幸せな気分になることができました。

社長様の大きな理解と支援室の先生方ご支援の賜と深く感謝して居ります。又、息子のサンコールさんへの思いには、ただならぬものがありまして、片思いですね。時々、自転車で会社を見に行き、満面の笑みでサンコールがあったと報告していました。

去年に実習が始まった時も、小さな子供の様に飛びはねて居りました。親は又、ホロリです。就労させていただいてからは、人が変わった様に大人らしくなりました。いろいろな小さな出来事がありまして、ひやひやさせられる事もありますが、やる気だけはあふれているようです。いつまでも、いつまでも、就労が続きます様、見守ってゆきます。息子自身が、何事もない事を念じて居ります。良い会社に就労させていただき、有難うございました。

息子が育った 42 年をふり返りますと、今から思えば楽しい事ばかりでございました。3700g の大きな丸々とした男の子、大きなうぶ声はひびきわたりました。発育も早く 10 ヶ月で歩き、誕生日ごろは三輪車をのり廻して居りました。いたずらはし放題。はなれて生まれた次男でしたので、甘く育ててしまいました。

しかし、入園、入学に対し何の準備も教えもしませんでした。あの頃、35～36 年くらい前です。教育テレビで朝早くから、カリキュラムシーンという番組がありまして、カタカナ、ひらがな、数字、漢数字、漢字等を実物と同時に写し、やさしく教えてくれる番組でして、小型テレビを買い与えて、一人で勉強させました。全部憶えまして、親も感心する程で、どんな良い子だろうと思ったものです。楽観して居りました。

入学しましたら、乗物に興味を持ち、親もついてばかり行けませんので、池袋から秩父までの定期券を買って首に下げ、小さながま口に千円以内の小銭を入れて、それも首に下げ、学校から帰るとランドセルをほうり投げて出かけて行き、七時か八時頃帰る毎日でした。コンビニもない時代、パンやおやつでお腹を満たして、時々、山の手線一廻りして帰ってきたり、もうどこへ行ったかなんて、さがす事も出来ません。きっと帰って来ると信じてひたすら待ちました。夜中になって帰って来ました。やりたいと思った事は全部やったのではないのでしょうか。

冷蔵庫の野菜もきりきざんでしまい、夕食はいつも大笑いでした。中、高も入学前に学校を探し、通学の練習をし、一度も送迎したことはありません。バス、電車の乗り換え、乗り継ぎが楽しかったのでしょうか。帰った時はもう満面の笑みでした。その笑みが私は又大好きです。とてもいとおしくなります。その笑みをいつも見られる様 やさしく、きびしく、見守ってゆきます。社長様、吉田先生 諸先生、まだまだご迷惑をおかけする事ばかり有ると思いますが、何卒、ご指導下さいませ様に、お願い申し上げます。